

# 奨励賞



設計者

## 濱野裕司

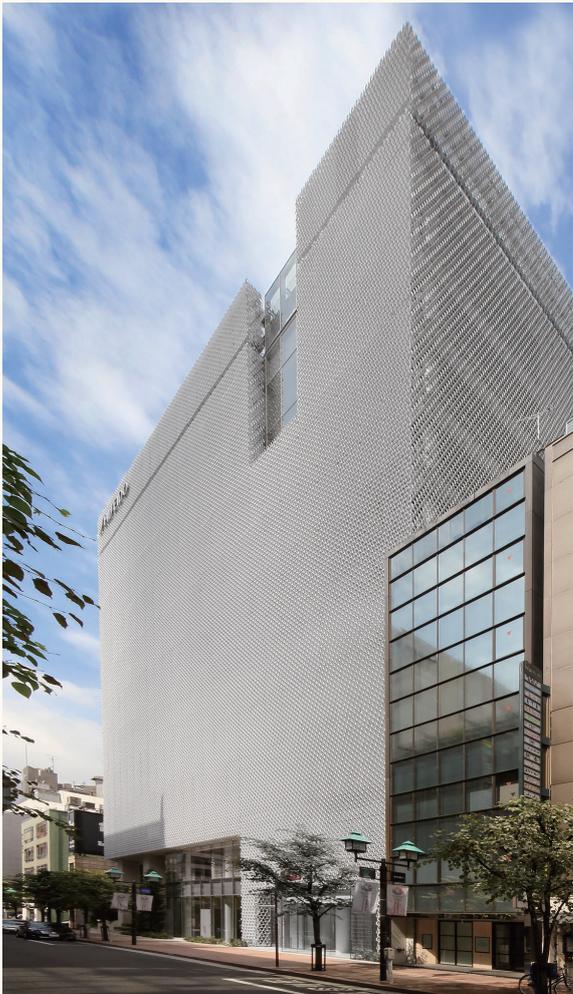
■ 神奈川県建築士会、(株) 竹中工務店 東京本店 設計部

事務所・店舗

東京都中央区銀座

### 資生堂銀座ビル

構造・階数	敷地面積	建築面積	延床面積	竣工
鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造 地上10階建て、地下2階、屋上2階	1,116.76㎡	939.75㎡	9,957.77㎡	平成25年7月31日



- A 建物全景。アルミシェード「未来唐草」が全体を包み込む
- B エントランスホール
- C 夕景。「未来唐草」をまとった建物内部からやわらかな明かりが浮かびあがる
- D 見る角度や距離・時間によってさまざまな変化をもたらすアルミシェード
- E 建物の表情に奥行き感を生み出す「未来唐草」は、日射による負荷抑制効果や自然光を適度に調整し室内へ導く
- F 事務室

#### 選評

省エネルギーへの関心が高まる中、日本建築の格子やすだれ、あるいは中東のマシュラビヤのように、日射や視線を制御する伝統的な建築手法を外装に展開することがあらためて世界的にもブームになっている。

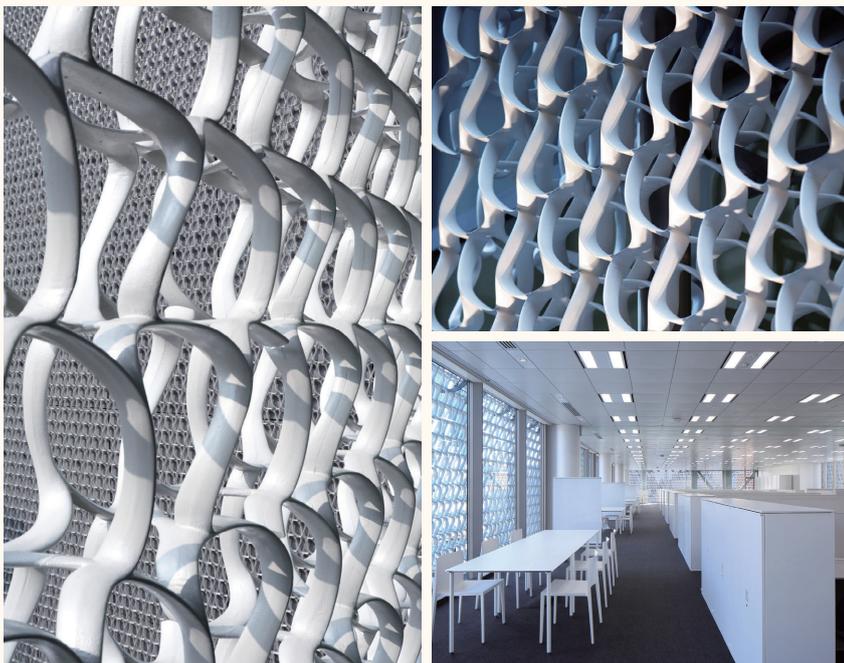
単に日射の遮蔽にとどまらず、機能上の制約からの解放や、アンビバレントな重層感、シースルー感による今までにないファサードをめざす新装飾主義とも言える流れである。

そのような中で、このプロジェクトはクライアントが長年シンボルとして使用してきた「椿」を立体的に抽象化したアルミ鋳物

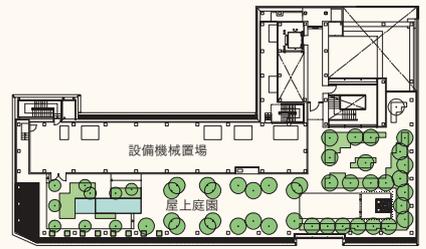
によって、企業イメージにつながる繊細でおしゃれな、光を受けて存在感を増すパッケージスキンを実現している。二層を重ねた奥行き感のある表情や連続感を徹底したジョイントや支持部の工夫、日射遮蔽や汚れ防止等の技術的昇華を重ねて、現時点のひとつの完成形を実現している。

目が飛び出るようなコスト、スクリーン以外の部分のデザインの密度、工作物扱いのための屋上スリットなどが少し気になるものの、ブランドを求めるクライアントの意向がうまく反映された商業建築の秀作である。

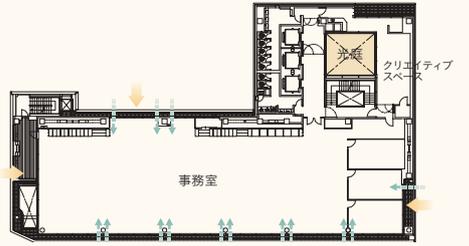
(櫻井 潔)



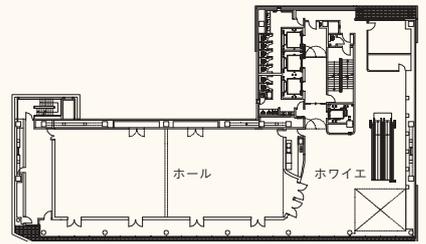
D



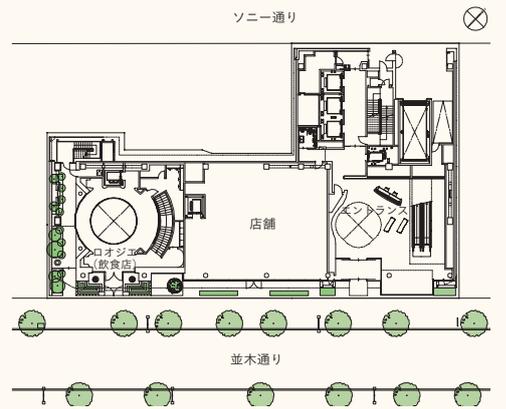
屋上平面図



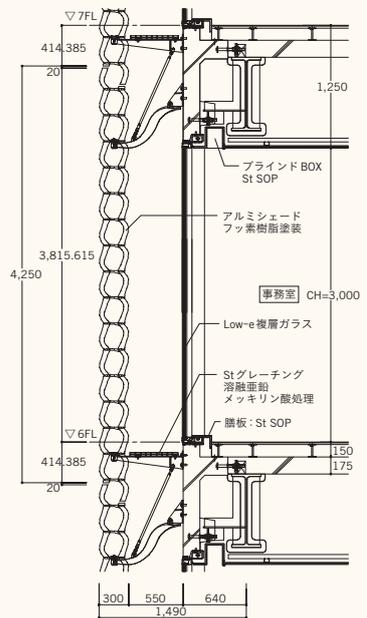
7階平面図



3階平面図



1階平面図



カーテンウォール断面図